

6つの危険因子に対処することで、非感染性疾患による早期死亡を減らせる

世界各国が、4つの主要な非感染性疾患—心臓血管病、慢性呼吸器疾患、がん、糖尿病—による早期死亡率（30歳から70歳までに死亡する確率）を2025年までに、2010年の数値より25%低下させること（25×25目標といわれている）に合意している。また、非感染性疾患の危険因子についても合意している。本研究では、非感染性疾患による死亡の危険因子6つ（喫煙、アルコールの摂取、塩分の摂取、肥満、高血圧、高血糖）に対する目標を達成することで、どのくらい25×25目標に貢献できるかを検討した。疫学研究のメタ分析の結果、危険因子に対する目標が達成されれば、30歳から70歳までに4つの主要な非感染性疾患により死亡する確率は、2010年から2025年の間において男性で22%、女性で19%減少すると算定された。すなわち、危険因子に対する目標が達成されれば、3,700万人上の死亡を遅延または予防することができるということが示された。最もその効果がみられるのは、低所得国や中所得国においてであり、3,100万人の死亡が遅延または予防できると推測され、非感染性疾患による早期死亡の各国の格差がなくなることが期待される。喫煙に関してはさらに厳しい目標（50%の減少）を達成できれば、男性で24%以上、女性で20%死亡率を低下させることができる。したがって、危険因子に対する目標が達成されれば、4つの非感染性疾患による早期死亡率は、とくに低所得国や中所得国において25×25目標に近づくことができる。また、喫煙に関しては現行のものよりもさらに厳しい目標を適用することが望ましい。

出典：The Lancet. Published online before print, 3 May 2014 doi: 10.1016